

番号	議題	質問・意見	当日の回答・対応等
1	議題1	飛騨圏域の人口は既に13万人を切っており、2040年には10万人を切る推計が示されているが、2040年になっても圏域は変えないということか。	まだ指針がはっきりしていない段階であるため憶測的な発言になってしまうが、急激な人口減少を見据えるとどこかのタイミングで圏域を維持できなくなる可能性があり、面積的なところも含めて検討が必要になると考えている。(事務局)
2		全体の人口が減っていく中で今後20年間は高齢者のボリュームはほとんど変わらないため、その観点は県はどのように認識しているか。	高齢者救急を担う医療機関が果たす役割の中で、骨折や誤嚥性肺炎等の高齢者特有の疾患をいかに地域で分け合っ診ていくかが課題であると考えている。(事務局)
3		県立多治見病院では看護師不足で一部病棟を閉鎖しており、十分に救急機能が果たせていない現状である。数年後に多治見に中京学院の看護学部ができるため、ある程度看護師の確保が可能になると考えている。 災害対策についてはまだ不十分であり、特に水害は非常に危惧している。	
4		現状の医師・看護師不足が何も解決されていない状況で2040年のことを話し合うことは無駄であり、あまりに無責任である。 各病院で頑張る領域と県や国でやる領域を明確にしていきたい。	ガイドラインをもとに新たな地域医療構想を作るにあたって、行政や病院、それ以外の関係機関の役割を整理しながら進めていきたいと考えている。(事務局)
5		システムはその都度変更できるが、ハード面はプランから完成まで10年以上かかり、途中で変更することが難しい。今回新たに東濃中部医療センターが開院し、東濃圏域の医療体制が変わったため、1、2年地域の医療情勢の変化を見ていただきたい。 県立多治見病院が水害に遭った場合には緊急避難的に補完ができると考えている。	
6		医師の派遣について、現状はほとんどが大学医局からの派遣に頼っているが、個々の病院がそれぞれ派遣の交渉を行っても医局側の効率的な医師の配置が難しいと考えられる。東濃圏域は愛知県に頼っている面もあるため、愛知県の大学医局の意見も取り入れることが非常に重要である。	
7		大学の医師派遣について、医局の壁が非常に大きな問題となっている。医局のヒエラルキーのようなものをなくせるよう、県に指導いただきたい。	
8		中津川市と恵那市の地域内受療率は約60%と示されているが、この数字をもっと上げるべきか、これでいいのか、県の意見を伺いたい。	県立多治見病院が西の端に位置しているため、エリア内のアクセス的な面も含めて中津川市民病院や市立恵那病院が役割分担し、急性期拠点を補完する機能をどうしていくか、ガイドラインを踏まえて議論深めていきたいと考えている。(事務局)
9		人口減少や大学の医師派遣力の低下による人材不足の中でも、中津川市民病院は災害拠点病院であり、災害時にも重要な病院の1つである。将来的には急性期の機能を諦めざるを得ないということもあり得るが、心臓や脳血管など急を要する部分に関しては今後も維持していきたいと考えている。	
10		岐阜大学の学生が中津川で働きたいと思っても専攻医プログラムが組まれていないためにこの地域の病院に行けないという事例もあるので、今後は県も間に入って積極的に橋渡しをしてほしい。	

番号	議題	質問・意見	当日の回答・対応等
11		大学病院は県全体をみるところであるため、岐阜圏域の急性期拠点ではなく、県全体の枠として表現したほうがよいのではないかと。 国公立や公的医療機関に対して、地域医療構想の推進についてしっかりと県が指導すべきではないかと。	
12		県立多治見病院は圏域に占める医師の割合が4割を超えている一方で、救急車の受入数が29%とギャップがあるように感じる。看護師が不足しているためベッドを閉鎖しており、満床で受けられないとのことで、愛知県との待遇の差が問題であると考えられる。県のお考えをお聞きしたい。	県として、県内就業の看護師を増やすために修学資金を新たに設立したり、市町村が行っている制度を補助したりするなど、取り組んでいるところである。 直接的に待遇の差を埋めることはなかなか難しい現状である。 (事務局)
13		東濃圏域の東部では、近くに急性期に対応できる病院がないため、時間との勝負である病気に対して、リスクが高い状況である。県にも、大学との交流を持って、地域の派遣にお力添えいただきたいと考えている。	
14		県内の看護師の就業者数は増えている中で離職をさせないための取組みを考えている。55歳以上のプラチナナースの活用や様々な働き方が選べるようにするなど、さまざまな形で看護職を吸い上げていく仕組みを検討しているところである。	
15		中濃圏域は2つに分けているのに東濃圏域はなぜ2つに分けられないのか。東濃圏域の東部は準拠点病院としての役割は必要であるため、県にも人材育成や確保にご協力していただきたい。	
16		医師、看護師、薬剤師のすべてが不足しており、この問題について大きなテーマとして取り組んでいく必要がある。 高齢者救急・地域急性期に関しては、各病院が機能分担し、高度な治療が必要になった場合は拠点病院に送るという体制づくりが大切である。	
17		救急問題を中心に人材不足が課題となっている。少子高齢化という大きな課題であるが、1つ1つ対策と分析を行い、地域の医療を守るために考えていくことが大事である。	
18	アドバイザー	高齢化が進んで高齢者の医療需要が高まり、少子化で働き手が足りなくなってきたという実情の中で、この問題は急性期拠点病院だけでなく在宅や介護にも波及してくる話である。病院以外との連携も考えていく必要がある。それぞれの病院が必要であるため、いかに適切な配置で管理していくかが地域で求められる。地域で人材の取り合いをするのではなく、今いるスタッフを有効活用して地域医療を守っていくことが大事である。引き続きよろしくお願ひしたい。	